|  |
| --- |
| **研修会報告書** |
| **県西** |
| **日時** | 令和1年12月1日10：00-12：00 |
| **場所** | 藤元総合病院　 |
| **参加人数** | 28人 |
| **内容** |
| 症例発表　３名１．小林市立病院　湯浅先生　３症例を通して　緩和ケアについて、傾聴、沈黙、共にいる事、共感の中で一番難しいのは沈黙であるとの事でした。リハビリの立場から考えると、「何かしなければいけない」と考えがちではあるが、「何もせず、話すのを待つ。遮るような質問をしない事」も大事であると、とても参考になる発表となりました。２．県南病院　小浜先生　心因性失声症を呈した患者様が声を取り戻すまで症例タイトル通り、声を取り戻すまでにどういった経過だったのか、とても興味深い発表となっていました。訓練時間や患者様との距離感はどう設定していたのか、心因性発声症は診療報酬上としてはどうなるのか、声だけでなく、なぜ書字の方にも影響が出ているのか等フロワーから質問がありました。また失声症に対する基本的な治療方法ものせてあった事で、リハビリ介入時からのイメージがしやすかったのではないかと考えています。３．藤元総合病院　古川先生　頸部の筋緊張緩和により、咽頭期の改善が図れた症例　総合病院では嚥下カンファレンスが確立されており、難しい症例でもチームで情報を整理し、適切な時期に適切な訓練を提供する等改めてカンファレンスの重要性を実感しました。また評価～問題点の抽出、訓練プログラムの立案～考察までとても分かりやすく、スライドも見やすい症例発表であったと考えています。 |
| **親睦会報告書（開催された時のみ記載）** |
| **日時** |  |
| **参加人数** |  |

令和1年12月1日